

生体腎移植レシピエントにおけるドナーへの罪悪感と移植前の抑うつ症状との関連

Associations between recipients' feelings of guilt for donors and depressive symptoms before living kidney transplantation

(Doi, S., Sekiguchi, M., Motoya, R., Kanazawa, J., et al. (2022). *Transplantation Proceedings*, 54, 622-629)

(論文の詳細) <https://doi.org/10.1016/j.transproceed.2021.10.033>

背景

【 レシピエントの抑うつの問題 】

* **レシピエント**: 臓器をもらう方、**ドナー**: 臓器を提供する方

- ・ 腎移植は透析治療と比べて健康アウトカムにおけるメリットが多い¹一方で、移植予後の悪さを予測するレシピエントの移植後の抑うつが問題となっている²
- ・ メンタルヘルス問題を抱えるレシピエント候補者は、臨床アウトカムが悪くなるリスクが高い^{2, 3}
→ 移植前にレシピエントの抑うつを把握することで、適切な支援を提供し、予後の悪化やQOL低下を防ぐことができる

健康な人から腎臓(2つのうち1つ)を提供してもらい、
レシピエントに移植する方法

【 生体腎移植におけるドナーへの罪悪感 】

- ・ レシピエントは移植への期待を抱く一方で、移植することの心配や恐怖、移植後の症状悪化など、困難な状況に直面することがある^{4, 5}
- ・ 特に生体腎移植の場合、ドナー移植後の健康問題について心配するなど、レシピエントはドナーへの罪悪感を抱くことがある^{4, 5}
- ・ レシピエントが抱くドナーへの心配は、移植前の抑うつに関連する要因とされているが、質的研究での検討に留まっている^{4, 5}

目的

移植前におけるレシピエントが抱くドナーへの罪悪感と抑うつとの関係を明らかにする

方法

(調査協力者) 生体腎移植を受けたレシピエント178名

(調査内容) 1. ドナーへの罪悪感(VASで評価。0~10点に換算)、2. 抑うつ症状(BDI-II)、
3. 共変量(性別、年齢、最終学歴、透析期間、ドナーとの関係性)

結果

目的変数 (BDI-II)	Crude model Coefficient (95%CI)	Model 1 Coefficient (95%CI)	Model 2 Coefficient (95%CI)
合計得点	0.61 (0.23, 0.99)	0.49 (0.10, 0.88)	0.46 (0.07, 0.85)
身体的・感情的要素得点	0.29 (0.05, 0.54)	0.24 (-0.01, 0.50)	0.22 (-0.03, 0.48)
認知的要素得点	0.32 (0.13, 0.51)	0.24 (0.05, 0.43)	0.24 (0.05, 0.42)

* 多変量回帰分析を実施 Model 1: 性別、年齢、最終学歴を調整、Model 2: 性別、年齢、最終学歴、透析期間、ドナーとの関係性を調整

移植前におけるドナーへの罪悪感の強さは、抑うつ症状、特に認知的要素と関連する
(悲しみ、悲観的、過去の失敗、罪責感、自己嫌悪、無価値観)

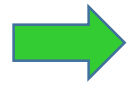
考察

生体腎移植に関する丁寧な説明



ドナーの長期的な健康への心配

心理士等による心理的支援

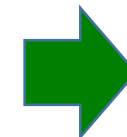


ドナーとの関係性

精神科による治療
心理士等による心理的支援



メンタルヘルスの問題



移植前のドナーへの罪悪感
・適切な把握
・減少への支援

ドナーに対する気持ちを把握することで移植前の抑うつの早期発見・支援につながる可能性
→ 移植前に適切な支援を行うことで、スムーズな移植および術後のさまざまなアウトカムの改善が期待